



入山 美咲さん

橋本 惟花さん

張 麗雲さん

永島 るなさん

富岡 賢治市長

高崎健康福祉大学人間発達学部こども教育学科4年(高崎市)。4月からは、市内の保育園に就職。子どもの気持ちにしっかり向き合える保育士を目指す

高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科4年(新潟県出身)。4月からは、精神保健福祉士として市内の病院に就職が決まっている

高崎経済大学地域政策学部観光政策学科2年(中国出身)。県内のさまざまな企業の見学やジェット口群馬が主催するインターシップなどに参加している

高崎経済大学経済学部国際学科2年(栃木県出身)。大学の助成を受けてシドニーでの海外研修を経験。将来は空港のグランドスタッフを目指す

市民目線を第一に、各分野で全国でも例のないさまざまな施策に取り組む。ガッツのある若者のチャレンジを応援したいと考えている

未来へチャレンジ

—高崎で学ぶ若者の夢—



新年号となる今回は、夢に向かって高崎で勉学に励む学生の皆さんをお迎えします。地域の福祉や保育の現場、国際舞台などそれぞれの分野で活躍を目指す皆さんにお話を伺います。

若い人たちが抱く高崎というまちの印象

市長 私は高崎をエキサイティングなまちにしたいと思っています。東京の若い人たちの間では、休みになると「渋谷に行こう」という会話があるんだそうです。同じように「高崎に行こう」と若い人たちに思ってもらえるような、そんなまちにしたいんですよ。今日は若い学生の皆さんにお集まりいただきました。皆さん縁があつて高崎で学んでいらっしゃるんですね。まず、栃木県出身の永島さん、高崎にはどんな印象をお持ちですか。
永島 まちの雰囲気がとても好きです。私の中では映画とパスタの街というイメージですね。
市長 なるほど。高崎経済大学に進学したのはどんな理由で。
永島 進学先を調べていて、経大に国際学科があるということで選びました。

市長 うれしいですね。同じく経済大学に留学生として通う、張さんのご出身は。
張 中国の吉林省です。私は農村で生まれ育ちました。実家が農家なので農業に興味があります。高崎経済大学では地域政策学部で地産地消を授業で学べます。両親が生産している農産物を商品化した、地元の農産物をPRしたいと思って経大を選びました。
市長 高い志をお持ちですね。高崎に住んでみて、どう感じていますか。
張 結構自然に囲まれていて、買い物とかも全然困ることが無いので、住みやすいところだと思います。
市長 そうですか。新潟出身の橋本さんは、小さい頃から社会福祉の分野に興味があつたんですか。
橋本 私が高校生のときに祖父が亡くなって、祖母が入暮らしたことが、元々母が看護師をしていたこともあつて、福祉の仕事に興味を持つようになりました。

市長 なるほど。実際に高崎に来てみて印象はいかがですか。
橋本 来る前は都会のイメージが強かったんですが、実際に来てみると、大学の周りには田んぼがあつて、駅周辺は都会で、ちょうど良い環境で気に入っています。
市長 そうですか。元々高崎にお住まいの入山さんは、保育士への憧れみたいなものがあつたんですか。
入山 私が幼いころは、親の仕事の都合で頻繁に転動していたので、保育所が変わるたび、子どもながらに不安を感じていたんです。でも、先生が優しくしてくれたことがすくく印象に残っていて。自分も子どもと関わる仕事に就きたいとずっと思っていました。

高崎で就職〜思いをカタチに

市長 若いときは故郷、親元を離れたと思うもんですよ。私ぐらいの年になると帰ってきたくなるんですけどね(笑)。入山さんは東京で就職したいとは考えなかつたんですか。
入山 そうですね。高崎はすくく住みやすいまちだと思うので、市内で就職先の園を探しました。
市長 今、保育士不足は大変な問題ですからね。高崎では人材確保のために、保育所見学バスツアーを開催しているんですよ。
入山 保護者の皆さんや子どもたちの成長を支援していきたいなと思います。
市長 それはありがたいことです。橋本さんは、就職についてどう考えていましたか。

それぞれの夢に向かって

橋本 私は新潟県外で就職したいと思っていました。大学のインターンの実習先で、精神保健福祉士の魅力に触れて、そのまま就職を決めたんです。2月に国家試験を受けます。
市長 人材が不足している分野ですし、それは貴重な存在ですね。業務内容的にも難しい仕事でしょうが、頑張ってくださいね。
永島 はい。オーストラリアのシドニーに3週間行ってきました。アジアをはじめ、ヨーロッパなど、いろんな国から集まった学生たちが少人数のグループに分かれて英語を勉強するんです。豪州なまりに苦戦しましたが(笑)。
市長 良い経験になりましたね。学科に所属する学生が全員海外研修に行くというのは、全国の公立大では高崎経済大学と秋田の国際教養大の2校です。これからの経済分野では英語力は必須ですから。
永島 学生はみんな、海外思考が強く海外で就職したい、外資系で働きたいという人もいて、よく話題に上がりますよ。私は、国際学科で学ぶ知識を生かして、いろんな国籍の人たちが行き交う、空港のグランドスタッフになりたいんです。
市長 英会話能力はもちろんですが、コミュニケーション能力、人間力が求められる仕事です。いつか空港でお会いできるかもしれませんね。張さんは日本で仕事をし

たいと考えていますか。
張 はい。夏休みの期間にジェット口群馬のインターシップに参加して、沼田市の企業が中国の四川省に事業展開するための商品PRの動画作成をお手伝いしました。その後、やっぱり農業に関わりたと思うので、JAたかさきとJAグループぐんまにエントリーしています。
市長 そうですか。私も張さんと同じ志を持っていてですね。高崎産農産物を海外にうんと売り込もうと動いているんです。まずは、高崎の農産物を東南アジアなどで販路拡大しようと、令和元年の8月にシンガポールに拠点となる会社をつくりました。つい先日、うれしいことに、榛名の大梨が200個いっぺんに売れたそうです。
張 すごい！オーパー階の高崎じまんでは、1個1000円で売っていましたよ。
市長 あれが海の向こうでは、1個8000円で売れるんですよ。質の良い高崎の農産物の評価を海外で高めて、最終的には、都内の高級フルーツ店や百貨店の店頭で並べるのが私の夢なんです。

高い技術の市内企業をPR 困難を恐れずチャレンジ

市長 高崎のような地方都市では、98%が中小企業ですが、ものづくりなど、高い技術力がある会社がたくさんあります。こうしたトップ企業を海外に発信しようとして、市では、シンガポールやチゴ、インドなどで、ものづくりフェアを開催しているんです。今後は、専職人などの伝統技能もアピールしていきたいですね。地方の都市

に高い技術力を持つ会社があつて、ビジネスが盛んなのは日本とドイツくらいだと思います。若い人たちにも、就職先の選択肢として考えてもらえるよう、高崎にすくい会社があるんだということを宣伝していくことも大事だと思います。ところで皆さん、普段の移動は車ですか。
橋本 はい。自分の車を持っているので。
入山 私も自分の車です。
張 私は車を持っていないので、電車やバスですが、少し不便かなと思います。
永島 栃木から電車とバスで通っています。が、ちよと不便に感じます。
市長 そうですね。お年を召した人たちはもつと大変なんですよ。いつも家族が乗せてくれるわけはありませんから。
入山 近くの地域に住んでいるおはあちゃんとかも大変そうです。

市長 そこで市では、中心市街地を周回する、お店ぐるりんタクシーというのを始めたんです。コース内だったら乗り降り自由で無料。タクシーの協会に運営してもらっていますが、好評なので、新たな取り組みとして、今度は郊外にも拡大しようと考えているんです。遠くから見ても分かるようなデザインにしてね。今あるものを変えるということは、当然、大変なこともあります。でも、いろいろ工夫していくことが大事。若い人たちにはどんどんチャレンジして欲しいですね。高崎を、そんな若い人たちが企業に選ばれるような、刺激のある面白いまち、活気のあるまちにしていきたいと思えます。皆さんもご協力ください。
同 ありがとうございます。